自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493000051	事業の開始年月日	平成19年12月28日
		指定年月日	平成19年12月28日
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	げんきステーション より道一休		
所在地	(2 4 2 - 0 0 2 4) 大和市福田5 - 2 6 - 1 0		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	24名
		通い定員	12名
		宿泊定員	5名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成25年11月3日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員手作りの食事をご利用者の嗜好に合わせて提供している。 家庭的で季節感のある環境作りに取り組んでいる。 ご利用者・ご家族のニーズに柔軟に対応している。 入浴は個浴である。 近隣を散歩し、季節ごとの自然を楽しんでいただいている。 できるだけ長く在宅生活を継続できるよう支援している。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年11月20日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、小田急江ノ島線・桜ヶ丘駅から徒歩約15分の住宅が立ち並ぶ閑静な地域に位置する。一般の住宅を改造して小規模多機能型居宅介護事業所として平成19年に開所した。道路から玄関へは階段、内部にはエレベーターやスプリンクラーを設置し、各所に手すりなどを取りつけて安全や防火対策に努めている。すぐ近くの引地川沿いの桜並木は、千本桜と呼ばれ遊歩道となっており、春は桜、秋は紅葉を楽しみながらの散歩コースとなっている。</p> <p>【創設理念に基づいた地域交流と支援】 事業所では小規模多機能型居宅介護サービスの制度開始から、その意義とこの地域での必要性を強く認識し、利用者が地域の一員として人々と交流できるような支援を心掛けている。毎月「喫茶ひとやすみ」を開催したり、地域の方に声かけしたりして、何かあった時や散歩時にも気軽に立ち寄れる場所として事業所を開放している。また利用者にとって、事業所が「第二の我が家」「知り合いの家のような場所」となれるよう、家庭菜園などを行い季節感のある家庭的な雰囲気作りを大切にしている。</p> <p>【利用者と家族を支える多機能性を活かした取り組み】 事業所は、地域密着型サービスの多機能性を活かし、利用者への柔軟な対応と家族を支えるサービスを実施している。職員は常に向上心を持って、利用者や家族の視点に立った支援を心がけている。利用者の状態や様子に合わせて「その時、本人にとっての適切なサービスは何か」を、その場で判断し柔軟に対応できる経験やスキルがある。</p> <p>利用者家族との関わりを深めるため、職員は利用者ごとの担当制になっており、計画作成担当者と一緒に利用者宅に定期訪問し、サービス担当者会議に出席している。職員は、訪問時の「出向きノート」や通いの「連絡帳」、業務中の「気づきノート」に様々な情報を記録し、全員で利用者に関わる情報を共有して日頃の支援やカンファレンスに役立てている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	げんきステーション より道一休
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「げんきに築く支え愛」という理念の下、登録ご利用者が在宅生活を継続できるようご本人とご家族を支援している。また、内部会議で理念の内容を振り返り、共有している。</p>	<p>管理者は「げんきに築く支え愛」という理念を基に、地域に密着した第二の我が家や知り合いの家として、利用者が家庭的な雰囲気や気兼ねなく過ごせる事業所を目指している。職員もこの方針に共感し、利用者だけでなく家族も支えるような気持ちでサービスを行っている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣の自治会に入っており、日常的に挨拶をしたり、地域清掃や防災訓練などのイベントに参加している。</p>	<p>自治会から回覧の年間行事などのお知らせで、夏祭りや餅つきに参加している。職員が地区の防災講習会や避難訓練に参加している。散歩の付き添いや室内清掃、楽器演奏、囲碁の相手などのボランティアが来訪している。地域の老人会から雑巾を贈られるなどの交流がある。毎月19日に「喫茶ひとやすみ」を開催し、訪れた近隣住民と交流している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>実際に地域の方に向けた介護者教室等を行うことを出来なかったが、見学に来られた方の対応は行っている。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、地域の自治会館で運営推進会議を開催し、事業所の運営状況や活動内容を報告している。自治会のイベントなどの情報交換も行っている。</p>	<p>運営推進会議は2か月ごとに開催している。メンバーは自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・大和市の介護保険課職員・施設長・管理者・計画作成担当者である。運営状況報告を行った後、市職員からのアドバイスや自治会からの提案などを受けている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>法令について随時相談・連絡している。大和市内の小規模多機能型居宅介護事業所の連絡会にて介護保険課の職員も出席されている為情報交換をしている。</p>	<p>市の介護保険課とは運営推進会議の際に情報を受けたり業務上の相談などをして連携している。大和内の事業所が参加する「大和元気ステーション'S連絡会」で、市の職員との情報交換や他の事業所との交換研修を行っている。地域包括支援センターで行われる独居老人の防災対策の研修などに職員が参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>1年に1度、内部会議で身体拘束についての研修を実施している（今年度は1月に予定）。その他、法人内の身体拘束廃止委員会にも出席し取り組んでいる。</p>	<p>契約書に身体拘束排除について記載し契約時に説明している。職員研修は、マニュアルを参照して毎年行っている。玄関は、一般家庭と同じように防犯のため鍵をかけている。帰宅を望む方に対しては、職員が付き添って散歩に行くなどしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法など全員が学ぶ機会はまだないが、防止には努めており、日頃のご利用者の関わりから原因不明の外傷がないかなど注意して観察している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>全員が学ぶ機会はないが、必要に応じて活用できるよう支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結時は必ずケアマネジャーとご本人またはご家族が対面して説明をして理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>1年に1度、満足度アンケートを実施し、集計後結果や改善点を書面にて報告している。</p>	<p>毎年アンケート実施し、結果を受けて常勤職員が話し合っている。集計結果や意見への回答を家族に報告している。利用者・家族の要望により、今年度から内容を利用者向けと家族向けの2パターンに分けて行っている。職員を担当制にし、計画作成担当者と一緒に利用者宅で担当者会議を行う仕組みや、看取りに関する体制づくりは、家族の意見を反映して実施した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月「げんきな会議」「一休スタッフ会議」を行い、職員からの意見や提案を踏まえ、業務改善やマニュアルの見直しを行っている。	管理者は、日々の業務中や休憩時間などいつでもスタッフと言葉を交わし、意見や要望を聞き取っている。会議でも上からの一方的な報告・指示にならないように気をつけている。利用者の忘れ物チェックリストの仕組みづくりや、担当を決めて経費削減の意識を高めることを職員の提案によって実施している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が事業所職員と同じ場所にいらないことから現状を把握しにくいのが、事業所に赴いた際は、職員とのコミュニケーションに努め、職場環境の改善に理解がある。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ごとに研修計画を立て、職員の経験や技術に合わせた法人内外の研修を受ける機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大和市小規模多機能型の連絡会を2～3ヶ月に1度開催している。今年度より事業所間交換研修を開始し、職員が1名他事業所に1日研修に伺い交流や情報交換を図った。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始の段階で、できる限りの情報を伺い、職員間で情報共有に努めている。利用開始直後は声掛けをこまめに行い、対応等配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時、利用開始後に訪問や電話等でコミュニケーションを取るように心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接面接を行い、ご家族・ご本人の希望を把握、理解をして必要なサービスを判断している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食器拭きや洗濯物たたみなどの家事を行ったり、ご利用者が自主的に洗面所の掃除をして下さることもある。貼り絵などの作品を共に制作することもある。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	在宅生活において困ったことがあった場合は相談に乗り助言をしているが、方向性はご家族の意志を尊重している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の近隣の方が面会に来られることがあり、ゆっくりとお話ができるように部屋の配慮をしている。ご利用者のなじみの人や場所を把握するよう努めている。	泊まりの方に近所の友人、孫などが面会に来た場合は個室に案内して話ができるように配慮している。泊まりの際に携帯電話で友人と話す利用者もいる。訪問サービスの際に行き慣れた馴染みの店への買い物に同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性などを日頃の関わりから把握し、リビングの席順など考慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご家族が事業所に来て下さるケースがあり、必要に応じて相談を受けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者との普段の関わりから、個々のニーズの把握に努め、ご本人本位に検討している。	アセスメントや計画作成担当者の訪問時に、生活への思いや会いたい人が居るかなどの希望を把握している。言葉にしづらい思いなどは入浴時などリラックスしたときに聞いている。通い利用の時は口をきかないが、訪問サービス時の穏やかな状況では気持ちを打ち明けてくれる場合もある。意志の疎通が困難な場合は、表情やしぐさを見て察知している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時や訪問時、サービス利用時にご家族やご本人、前任ケアマネや包括職員より聞き取りを行い、これまでのサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察に努め、ご本人に出来る事、やりたい事を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご自宅でのサービス担当者会議には現場のCWや看護師も出来る限り訪問し、ご家族との関わり作りに努め、現場の生の声を反映するようにしている。	入居時や要介護度の変更時には通いと訪問に分けて暫定プランを作成している。ケアサービスの記録は経過記録に記入している。利用者宅で本人・家族、計画作成担当者、担当スタッフが参加してサービス担当者会議を開催している。モニタリングは毎月実施し、利用者・家族の満足度を把握して見直しに繋げている。必要に応じて医療の情報を取り入れている。	介護記録の様式を整備し、介護計画の目標や項目に沿った実施状況を記録して、ケアプランの達成度を評価に加えることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容を踏まえ、生活の記録にて細かく記録できている。ご利用者への気づきに対しては、専用の書式を作成し、情報共有に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わるニーズに柔軟に対応できるよう、職員配置に工夫をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方が見守りや声かけをしてくださるケースがあり、何か異常がある際は事業所に連絡をしていただく体制を作っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族が希望するかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。必要時は受診に付き添い、ご家族と共に医師に挨拶や相談をしている。	利用者は通いなれたかかりつけ医を受診しており家族が対応している。受診情報は家族との連絡帳や訪問時に薬の情報などを聞き取って記録し、共有している。専門医など初めての診療には職員が同行している。利用者に軽い風邪の症状がでたときや薬の使用などは協力医療機関に連絡して指示を仰いでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々気づいた事や不安な事は事業所の看護職員に相談し助言を得ている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時医師や看護師に説明を受け、ご家族との病状説明にケアマネジャーが同席している。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や緊急時の対応をご家族と話し合いをしている。看取り介護への取り組みを今年度より開始し、往診医の依頼や市への確認などを行った。</p>	<p>昨年度までは看取りに対応していなかったが、最近になって看取りの希望が出はじめたので、訪問医と契約して月2回の往診の体制を整えた。看護師が看取りについての基本的注意事項や看取りケアのマニュアルを作成し、職員が勉強会を行った。家族にも勉強会の開催を知らせている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応についてのマニュアルを作成し、勉強会を行った。法人内の防災訓練にも参加し、救急対応の手順を学んでいる。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>事業所内の防災訓練を年に2回行い、夜間想定防災訓練では地域の方が4名参加して下さった。地域の方の協力を得られる体制にある。</p>	<p>防災・避難訓練は年2回で、そのうち1回は18時過ぎに夜間想定訓練を実施している。今年9月の訓練には自治会長、地区班長2名、民生委員などの地域住民が参加した。自治会主催の講習会に職員が参加して、消火水栓からホースをつなげて放水訓練をした。災害備蓄は3日分の水、食料、12名分の救急災害セットを保有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を敬う気持ちを忘れない言葉かけやプライバシーに配慮した対応に努めている。	排泄時の失敗などは、人前であからさまに騒がないでさりげなく対応している。間に合わなかった場合は、トイレの隣にすぐ浴室があるので、カーテンでかくして誘導してすぐ湯で流すなどしている。着がえは、別の職員に持ってきてもらっている。個人情報に記載された書類は1階事務コーナーの鍵付き書庫で保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の気持ちを確認できるような声かけをして、対応時に了解を得ている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日の希望や1日の過ごし方等、個々のニーズやペースに合わせて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って、整容や着替えの支援をしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の嗜好や状態に合わせた食事の提供をすると共に、季節感のある食材を提供している。ご利用者と職員と一緒にテーブル拭きや食器洗いを行っている。	献立は1か月ごとに調理当番がメニューを記入して食材を購入している。毎食出来たての温かい物を提供し、器や盛りつけを工夫している。「利用者食事形態注意事項表」に個人別の禁止食品やカロリー制限、服薬情報などが記載され、配膳のときに参考にしている。行事食も手作りで提供している。食事は全品少量に分けて検食している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>ご利用者の状態に応じて食事量や水分摂取量をチェックしている。ご利用者の食事に関する注意事項をまとめている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアの援助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>個々のご利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導の時間などにも配慮している。できるだけトイレで排泄できるよう支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて、排便記録を行い、飲食物の工夫や腹部マッサージなどの対応をしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の回数や時間をご利用者やご家族の希望に合わせて対応している。のんびり入浴したい人にはなるべく自由な入浴を支援している。</p>	<p>家族からの要望もあり、入浴は週2～3回で午前を中心に実施している。肌の弱い方は専用のボディ石鹸を使っている。自分用のバスグッズを用意して通う方もいる。入浴が好きでない方に対し、言葉かけなどの対応を工夫したり時間を変えたりしている。その日の体調により、シャワー浴や清拭などに変えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望により、昼寝や個室での休憩などを行っている。泊まり利用時は、ご自宅での状態に合わせてベッドや布団の対応をして、安心して眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容に関する情報をいただき、ご利用者の状態に合わせて服薬の支援をしている。薬情報のファイルを作り、情報を職員が把握できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の出来る事、やりたい事を把握し、お手伝いをする事で役割を持っていただくようにしている。またやることを強制せず、好きなことをして過ごせるよう支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	歩行リハビリの希望がある方は、天気の良い日に近隣に散歩に行く取り組みをしている。法人の行事に外出する際にご家族が協力して下さるケースがあった。	天候が許す限り近所の川沿いの遊歩道を散歩したり買い物に出かけたりしている。歩行が困難な方には事業所の車いすを使用している。利用者の希望で、展示会用の菊の栽培をしている近隣宅に見物に行き、交流している。公園や江ノ島など遠方へ出かけることもある。重度の方も、地域の行事に行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の状態に合わせて、法人の行事に参加する際にご自分のお金を使えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から依頼があれば電話の支援をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内に季節の飾り付けやご利用者が制作した作品を飾り季節感のある環境作り心掛けています。また、快適に過ごせるよう採光や音楽に工夫をしています。	民家を改造して、手すりや階段の滑り止め、防護柵、バリアフリー、エレベーターを設置して安全を確保している。リビングルームは南向きで採光が良く菜園を兼ねた庭に降りることができる。玄関までは階段になっている。訪問時は外に干し柿が吊してあり、中の壁面に布や紙で作ったクリスマスの飾り付けが季節を感じさせていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中でもソファやテーブルの位置を工夫して1人になれる空間を確保している。ご利用者同士で会話ができるよう2階の個室を使用していただくこともある。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れている電気あんかや入浴道具などを持ってきていただき、居心地よく過ごせるよう心掛けています。	泊まりの部屋は2階に3部屋あり、それぞれ「うぐいす」「かわせみ」などの鳥の絵と名前をプレートで表示した個室である。壁かけ時計、テレビ、空調設備、照明器具、転倒防止を施した洋服ダンス、介護用ベッド、カーテンが常備されている。1階の和室も泊まりに利用できる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内に手すりを設置している他、階段には滑り止めを使用し安全に配慮している。トイレ・2階個室の目印をつけている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 げんきステーションより道一木

作成日 平成26年5月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	介護記録の様式を整理し、介護計画の目標や項目に沿って実施状況を記録し、ケアプランの達成度を評価に加える必要がある。	介護記録の様式を見直し、今より書きやすく、わかりやすい介護計画の実施状況がわかりやすくできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 現在の介護士全員の書式の問題点を職員間で出し合い、新しい書式の検討をする。 他の小規模多機能型の手本を参考に作成する。 	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。